

言語力の規定と その育成について

大津由紀雄

慶應義塾大学

第2回言語力育成協力者会議

2006年07月06日

話の段取り

1. 「言語力」の規定
2. 「言語力」の育成
3. 「言語力」と他教科

中心概念：メタ言語意識

「X Y力」

- 持久力、発言力、生命力、
労働力、精神力、政治力、
身体力、求心力、公定力、
技術力、原動力、忍耐力、
潜在力、想像力、英語力、
老人力、...

ことばの力

言力(21世紀日本の構想懇談会)

語力(安西祐一郎)言語使用に
おける判断力

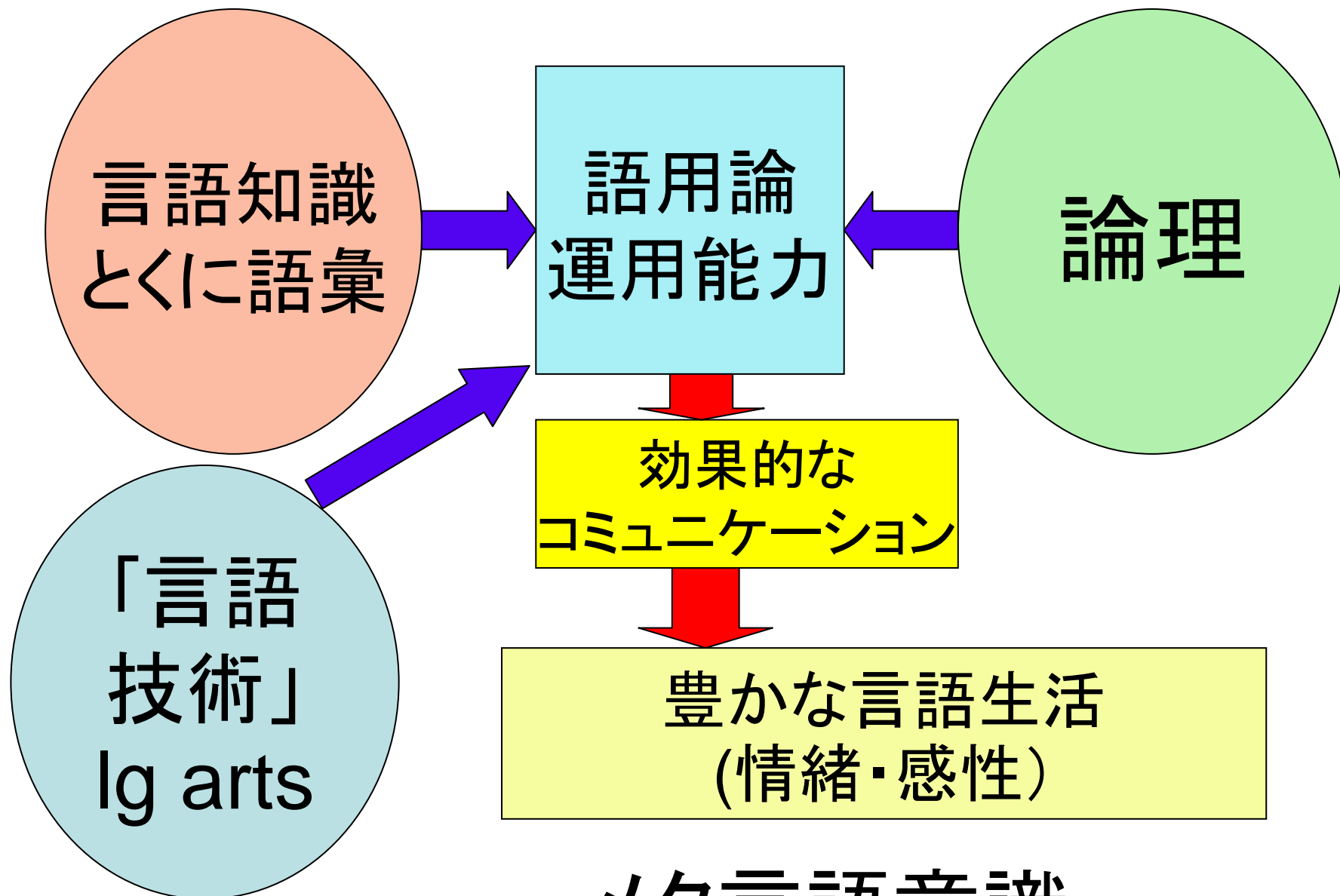
言語能力(competence): 言語知識

「言語力」に潜むあいまい性

1. 言語が内在的に持っている力
(朝日新聞)
2. 言語知識を効果的に運用することによって、豊かな知的達成を成し遂げることができる能力
(ことばを上手に使って、生活を充実させることができる力)

言語力を構成する要素

1. 言語知識
2. 言語運用知識（語用論）と
言語運用能力
3. 論理
4. コミュニケーション
5. 情緒・感性



メタ言語意識

メタ言語意識

1. 言語に関する意識
言語知識の意識化、言語運用過程の意識化（「気づき」）
2. 対象によって、発現時期が異なる。（音韻、形態、統語、意味、語用、など）

論理

数学
理科

1. 論理構造

2. 議論の構造 (事実から
主張へ、その論拠は?)

3. 論理の表現
(言語表現)

国語
外国語

全教科

「言語技術」

- Language arts
- Arts and sciences
- 言語表現法

言語表現法

- 普遍性と個別性（多様性）
- 原理とパラメータ
- 表現法に可変部分あり、その設定次第で、さまざまな形で表面化する。

コミュニケーションの教育

- 共同学習
- 対話
- 自分自身との対話
(メタ認知) cf. 推敲

記述と説明（議論）

小学校

低学年 中学年

1. 資料の収集
2. 資料の整理と事実の認定
3. 事実の記述

4. 事実と論拠を使った議論
（主張へ）

小学校高学年から中学校

ディベート

1. 命題の意味するところの
明確化
2. 定義
3. 調査
4. 議論の組み立て
5. 発表力

スピーチ

1. Speech to inform
2. Speech to persuade/convince/actuate
3. Speech to entertain

情報伝達

1. 新情報は目立つように提示する。
2. 文構造：旧情報→新情報
3. 新情報はゆっくりと大きな声で

外国語教育

1. 主として母語によって形成されたメタ言語意識を活用して、外国語の運用能力を育成する。
2. 母語教育と外国語教育の連携
(両者は対立するものではない)
3. 母語教育から外国語教育へ

情緒・感性

- 従来の教育においては、情緒・感性の面に重点が置かれ、論理や表現法への配慮が不足していた。
- 二者択一の問題ではなく、バランスの問題である。